

## 2016 遺愛全校修養会について

今年で 64 回目になる遺愛の全校修養会が 10 月 27～28 日に行われました。今まで様々な講師の先生が来られ、遺愛の生徒の皆さんに、とても良い影響を与えて下さり、修養会で自分の進む道を見出した先輩が何人もいました。今年には比企敦子先生をお招きし共に学ぶことになりました。

比企先生は、1971 年に立教大学をご卒業し、直ぐに日本航空 J A L の国際旅客部国際旅客課に入り、8 年後、今度は女子の中高一貫校に英語の先生として 2 校 30 年以上勤務されました。現在は N C C (日本キリスト教協議会) 教育部総主事をされています。

今回の遺愛の修養会では、主題「いのちを選ぶ」にそって、2 日間で「いのちが置かれている環境」をめぐって、3 回の講演をして下さいました。発展途上国の子供たちがおかれている環境、日本の子供たちがおかれている環境、そのなかで差別・偏見にさらされている子供たちの現状など、たくさんの事を学ぶことができました。特にセクシャルマイリティの方々への関わり方については考えさせられるものがありました。

講演の中で、私が特に印象深く感じた言葉は、

1. 命の重さ、大切さは同じ。
2. 命の置かれている環境は違う。
3. 命の輝きは、環境に左右されない。

自分が置かれている環境を嘆いてばかりいて、一步を踏み出せないことがあります。でも、どんな環境にあっても、誰でもが輝くことができるという言葉は、とても勇気づけられました。

修養会終了後の「生徒有志による講師を囲む会」は約 70 名の生徒が自主的に集い、熱心に先生に質問をしていました。

2016 年 10 月 29 日



講師を囲む会



晩秋の遺愛本館